

卒業するみなさんへ

副学長・学部長からの応援メッセージ

【卒業(修了)おめでとう】おめでとうございます。5人の副学長と9人の学部長からいただいた応援メッセージをお届けします。最新の大学の情報は、ウェブサイトやSNSを通じて積極的に発信していきますので、今後も本学の活動や取り組みを応援してください。教職員一同、皆さんの今後の活躍を心からお祈り申し上げます。

上智大学は皆さんとともに
学生総務担当副学長 永井 敦子

私も皆さんと同じ、上智大学の卒業生です。子どもの頃親に連れられて获野駅から丸の内線に乗り、いい加減飽きてきた頃に急に視界が開けて空と緑とグラウンドが広がる、そこが何かを知る前に感じた明るさと穏やかさと伸びやかさが、いくつになっても私にとっての、上智大学のイメージそのものであるような気がします。これから皆さんはどんなときに、誰といっしょに、車窓の向こうにこのキャンパスを見るのでしょうか。シビアナ営業の合間に、結婚式の打ち合わせに行く道すがら、心配な検査の結果を聞きに病院に行くとき…これからも上智大学が皆さんとともにあり、「真理の光」をともに探し続ける母校でありますように。ご卒業おめでとうございます。

**勇気をもって他者と
ともに歩んで下さい**
総合人間科学部長 酒井 朗

ご卒業おめでとうございます。新型コロナウイルス感染症の拡大により、皆さんの学生生活は大きな制約を受け、勉学にも影響があったことと思います。そのような中でも学修に動かし、様々な活動に積極的に取り組まれてきた皆さんの努力に心から敬意を表します。卒業後もそれぞれの進路でのご活躍を心から祈念しています。ただし、これから先も皆さんが予想もしていなかったことがいろいろ生じるでしょうし、そのことでご自身や周囲の方が困難を抱えたり思い悩まれることもあると思います。そういう時に他者に頼ろうとせず自分で何とか解決しようとする人も多いのですが、そういう時こそ勇気をもって支えを求め、他者とともに歩んでほしいと思います。すべての皆さんが安寧な生活を送られることを願っています。

活躍を期待しています
理工学部長 澁谷 智治

この春に卒業・修了される皆さん、おめでとうございます。皆さんはこれまで、小学校から中学・高校・大学へと進学するにつれて広がる自由と、それに伴って重くなる責任とに真摯に向き合ってきたことと思います。そして、社会人への扉を開き、これまでとは比較にならない程の大きな自由と重い責任とを手にする今、「進むべき道」の選択に迷われる方も少なくないでしょう。皆さんが修めた大学での学びの中には、これから遭遇する様々な迷いを解きほぐすためのヒントがあると信じています。信頼できる友人ならどう立ち向かうだろうか。恩師ならどうアドバイスしてくれるだろうか。その思いこそが、本学で学んだ皆さんの財産です。皆さんの将来が実り多きものになることを願っています。

個性を磨き続ける力
高大連携担当副学長 西澤 茂

皆さん、卒業おめでとうございます。コロナ禍の制約からようやく解放され、まさに社会に羽ばたく絶好のタイミングだと思います。ただ、社会での活躍に胸を膨らます一方で、Chat GPTなどのAIの台頭で、既存の仕事が次々とAIに置き換わっていくなど、ドラステックな社会環境の変化に、不安を感じている人も多くいると思います。そのような状況下では、AIでは対応できない、個々の力、個性を磨くことが必要不可欠です。そのため、社会で様々な経験を積むことに加えて、継続的に学び続け、経験と知識・教養をアップデートして、個性を磨き続ける姿勢がとても大切になります。大学を卒業した後も、是非、個性を磨くための学ぶ姿勢を持ち続けて、社会で活躍することを願っております。

コロナ禍の想起のうちに
神学部長 川中 仁

三年あまりに及んでいるコロナ禍の取束の兆しが漸く見えてくる中、わたしたちはコロナ前の日常を徐々に取り戻しつつあります。大学生活の大半でコロナ禍の直撃を受けた今年卒業・修了する皆さんにとって、コロナ禍のこの三年間は、過去の出来事としてできるだけ早く忘れて封印してしまいたいような体験かもしれません。ですが、まさにコロナ禍の体験を経て、わたしたちは、あたりまえだと思っていたことが決してあたりまえではないということや、また日常生活の一つひとつがかけがえのない輝きに満ちているということを悟ることができたことを思い起こしましょう。皆さんは、日常生活で出会うかけがえのない一つひとつを常に感謝をもって受けとめながら、これから始まる人生の新たなステージを歩んでください。

**次の目標に向かって
新たな挑戦を!**
学務担当副学長 伊呂原 隆

大学卒業・大学院修了、おめでとうございます。みなさんは予期せぬコロナ禍に見舞われ、思い描いていたおりの学生生活とは異なっていたかもしれません。しかし、どのような環境であれ、志を高くもって、寸暇を惜しんで学び続け、我々が直面する様々な社会課題に対して果敢に挑戦することによって、必ずや輝かしい未来を切り拓くことができると確信しております。一生はあっという間に過ぎ去ってしまいます。卒業・修了はゴールではありません。さあ、今すぐに次の目標に向かって新たな挑戦をはじめてください。地道な努力を積み重ねる者のみが幸運を掴み取ることができるとも思います。いつも明るく、前向きに、愚痴をこぼさず、感謝の気持ちをもっていると、必ずや、思いが実現するはずですよ。今後のご活躍をお祈りしております。

**意志に支えられた
楽観主義**
経済学部長 網倉 久永

卒業おめでとうございます。皆さんの門出にあたって、「明るい未来を信じよう」と伝えたいと思います。明るい未来と言われても現実感がない、紛争・環境など、われわれは重大な問題に直面しているという指摘はもつともです。こうした問題を前に、解決の困難さに絶望したり、悲観的な気分になるかもしれません。しかし、悲嘆に暮れるだけでは、問題が解決する日はやって来ません。アランが『幸福論』で述べているように、「悲観主義は気分のものであり、楽観主義は意志のもの」です。われわれ人類は、過去に何度も大きな試練に直面してきました。しかし、その都度、知恵を絞って難局を乗り越えてきました。人間のもつ、学び、進歩する能力を私は信じています。皆さんも、強い意志をもって楽観的に明るい未来を信じ、これからの人生を歩んでいってください。

**新しいスタート、
おめでとうございます**
総合グローバル学部長 前嶋 和弘

ご卒業おめでとう。この3年間は、新型コロナウイルスの感染被害で学生生活は根本的に変わり、留学など描いていた夢まであきらめた方もいると思います。皆さん自身や身近な方にも大きな健康被害が及んでいるかもしれません。皆さんの心労、いかにばかりと胸が痛みます。ただ、このような時期こそ、「グローバル化とは何か」という言葉を真剣に考える良い機会だったのではないのでしょうか。なぜならコロナ禍は「グローバル化」の負の部分そのものだからです。感染症流行によって露わになった不平等や社会・国際秩序の変化が現在進行形でいまだ続いています。一方で人々の連帯と協力の可能性などの新しい潮流も見えます。卒業後に皆さんが直面する「コロナ後」の世界はこの大きな潮流を見つめることに他なりません。皆さんのご成長、とても期待しています。

おつかれさまでした

本年度退職教職員

長年本学の教育・研究に尽力いただいた教職員が、3月31日付で退職する。退職者を代表して、地球環境学研究所の平尾桂子教授と職員の小幡富志男さんに寄稿いただいた。【専任教員の定年退職】吉畑博代(言語科学研究科言語学専攻)、平尾桂子(地球環境学研究所地球環境学専攻)、平尾桂子(地球環境学研究所地球環境学専攻)、平尾桂子(地球環境学研究所地球環境学専攻)...

学び舎に通って
地球環境学研究所地球環境学専攻 平尾 桂子

世間では職場に通うことを「通勤」と言いますが、自分が職場に通うことを私は密かに「通学」と呼んできました。学校が職場だからという以上に、自分の仕事の中心に「学友」がいったら、それは「通学」ではなく「成長」とは何か「成長とは、そんな毎日でした。」

「理」を大切にしよう
文学部長 寺田 俊郎

卒業おめでとうございます。大学でみなさんが学んできた大切なことのひとつに理に適ったことを考え、行うことがあります。理論を学び、論理的に考え、理由をあげて説明し、合理的な解決を図る修練を積んできました。それは他者を理解し、理不尽な事態を避けるために必要なことです。しかし、日本社会では未だに非理性的な思考や行動が幅を利かせています。理屈を言うなど言われ、理性的に考えることが疎まれることすらあります。もちろん、私たちの生は理屈で割り切れること(理=ことわり)ばかりではありません。感覚や感情を働かせることも大切です。しかし、私たちはまだまだ理を尽くして考え、行動しているとは言えません。丁寧に理由をあげて相互理解を図り、不条理な支配や抑圧や排除をなくして道理に適った社会を築いていくためにも、どこまでも、いつまでも理を大切にしてください。

**研究という
営みへの信頼**
学術研究担当副学長 岡田 隆

本日、卒業・修了の日を迎えられた皆さん、誠におめでとうございます。皆さんが本学で過ごされた学修の日々は、コロナ禍という世界的困難を克服するための人間の意志と知恵が試される中で、これまでになく厳しいものであったかと思えます。この状況下において初志を貫徹し上智大学のそれぞれの学位を得られた皆さんに、心から敬意を表します。厳しい日々ではありましたが、一方で、学術がそれぞれの視点から今般の問題解決に向けて寄与する経過を目の当たりにしたことは、研究という営みへの信頼を改めて確認するものともなりました。専門分野の学術を修められた皆さんの本学での経験が、目の前に開けている新たな段階の人生において存分に生かされますよう願っております。

ご活躍と貢献を
法学部長 原 強

ご卒業おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。卒業生の皆さんは、これからいろいろな道に進んでいかれることと思います。それぞれの道を進むにあたって、楽しいことばかりでなく、いろいろ大変なこともあるかもしれません。そのような時は、上智大学で過ごした日々を思い出していただければと思います。キャンパスで学び、そして友人と過ごした時間の思い出が、きっと自信や勇気を取り戻すことにつながり、大変なことも乗り越えていくことができる糧となるものと思います。また、皆さんは、意識するといなどにかかわらず、上智大学の教育精神である「他者のために、他者とともに」という精神を身につけておられると思います。その精神のもと、国内外のさまざまな場面で活躍、貢献されることを祈念いたしております。

**新しい社会を
デザインする勇気を**
外国語学部長 幡谷 則子

ご卒業おめでとうございます!皆さんの多くは、上智の門をくぐって1年もたたずに「コロナ禍」を経験することになり、多くの機会に制約を受けました。その後ウクライナ紛争により世界情勢は激変、おそらくこれまでの卒業生よりも、悩み、不安を抱えながら学生生活を送られたはずですよ。だからこそ、今日卒業の日を迎えた皆さんは、誰よりも他人の痛みがわかる心と、想定外の事象にもひるまず、勇気をもって歩む逞しさを身につけられたと思います。新しい生活様式にすんなり適応した人も、戸惑い続けている人もいることでしょう。それでも皆さんの前には無限の可能性が広がっています。既存の枠組みを超えて新しい社会をデザインする発想の転換が求められている時です。迷ったらこの学び舎を訪ねてください。集立つ皆さんがどんな景色をめざすのか、その挑戦をいつでも応援しています。



May the Sophia Spirit be with you wherever you go
Angela Yiu, Dean, Faculty of Liberal Arts

The Sophia Spirit is embodied in our school emblem *Lux Veritatis* (The Light of Truth) and our motto *For Others, With Others*. *Lux Veritatis* speaks to our intellect for us to exercise critical thinking to seek light and justice as we encounter darkness and injustice in the world. *For Others, With Others* appeals to our hearts and compassion for us to share our good fortune and privilege with those who are less fortunate. May you carry the Sophia spirit and share the light and love with everyone you touch.



A good balance of confidence and modesty
Tetsuo Morishita, Vice President for Global Academic Affairs

Congratulations on your graduation. In your future life, it is crucial to maintain a good balance between confidence and modesty. You have accomplished your studies at Sophia University. I encourage you to have confidence in what you have accomplished and to continue exploring various challenges. At the same time, your studies at Sophia are only the first step, and you will have to learn much more in your life. Modesty is the key to good learning. Please continue to learn from others with a modest mindset.

43年間の出会いと軌跡
人事局付 小幡 富志男

2009年に地球環境学研究所に地球環境学専攻(後、文部科学省の「グローバル30」)に上智大学が採択され、実施母体が地球環境学研究所となったことから、英語で学位を取得できる国際環境コースの立ち上げに関わりました。コースは順調に発展し、今では50以上の国と地域から留学生が集まっています。このような学び舎で、人生の大きな部分を過ごせたことを心から感謝するとともに、上智大学がますます発展しますようお祈りいたします。